
歩道の側で

雷鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩道の側で

【著者名】

Z8963Y

【作者名】

雷鳥

【あらすじ】

銀杏のある一日について。

(前書き)

何か、沢山物足りないような気がしながら、投稿しました。最後まで読んでもういたら、嬉しいです。

車道に車やトラックが、「じゅうじゅう通る。」「じゅうじゅうすれ違にあい、
「じゅうじゅう走つて行く。

車道の脇を自転車が、びゅんびゅん走つて行き、のろのろ歩いて
行く。びゅんびゅんすれ違いあい、のろのろすれ違いあつて、びゅ
んびゅん走り、のろのろ歩いて行く。

私は、いつも歩道の車道側の脇で見ていく。

いや、眺めている。車や自転車とは違う物も見てている。眺めている。
この地球をマリンブルーとでも言うのだろうか、青色に染まっている
海のよう広く青い空の上を飛び交う鳥や、私の体の前や後ろを
飛び交つたり、アスファルトの上を てくてく、のしのし歩いて行
く虫。

そして、私をこのような所へ植えた「人」も見てている。眺めている、
眺めるしかないのだ。

「人」という物は、大変興味深い物である。私は、最近になつて
この街に来、「人」と呼ばれる物を知つたのである。近所のおじさ
んが、教えてくれたのである。

おじさん曰く、「『人』と言つ物は、二人以上でいると、がやが
ややかましく話したり、幸せそうな笑みをうかべながらの会話や、
悲しそうな顔をして沈みながらぼそぼそと会話をしよる。」と。

その様な事は、生まれた時から知っています。私が、そのように申したら、「最後まで聽かんか。」と、若い実を膝に落とされたのである。

「最近の若い『人』は、小さなピカピカした物を耳に当てて一人で話したり、それを手に持つて、なにやら指でそれを押しながら歩いておる。あまりにそれに集中しておるからか、歩道を走る自転車にぶつかりそうになつておる時が、多々ある。」と。

駅の向こうの方から、一人の若い男の「人」がそれを耳に当てながら、こちへ歩いて来ている。今の時間帯は、道が「人」で溢れかえる時間である。

夜空にいつこの月が上り、雲が、すうまい流れている。

「人」は、真剣な表情をしながら、こちらにやつて来て、私の体の前で立ち止まつた。数分ほど、何やら忙しく会話をした後、急に哀しそうな表情に変わつた。男は、私に体を寄せながら、頭を下に向けた。その時、私の足元に水が落ちてきた。少ししおっぱい。

「人」は小さなピカピカした物に、数回話しかけて、そして、ゆっくりとしゃがみこんだ。

私は、「人」をじつと見つめた。

(後書き)

「」感想を、書いていただけすると、嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8963y/>

歩道の側で

2011年11月26日22時49分発行